

●第2回富田林市地域福祉推進委員会 議事録（概要）

1. 開催日時 … 令和7年2月20日（木）（13時00分～14時40分）
2. 開催場所 … 多文化共生・人権プラザ 3階 会議室A・B
3. 参加予定者 … 委員（15名）、事務局（増進型地域福祉課）
オブザーバー：富田林市社会福祉協議会（2名）

事務局	<p>1.はじめに</p> <p>●オブザーバー紹介</p> <p>●資料確認</p> <ul style="list-style-type: none">・次第・地域福祉推進委員会委員名簿・資料1-1 全体校区交流会議について・参考資料 広報とんだばやし2月号・資料1-2 校区交流会議2024・参考資料 新たな福祉をつくる～校区交流会議と増進型地域福祉～・資料2 重点施策の進捗状況について」・資料3 次期（第5期）計画策定に向けたスケジュール（案）について <p>●富田林市地域福祉推進委員会の設置目的</p> <p>富田林市地域福祉計画の策定及び推進について意見を求めるため設置されており、現在は、第4期富田林市地域福祉計画の進捗状況について、ご意見をいただくことが主な目的となる。</p> <p>●会議成立要件の確認</p> <p>委員数17名中、本日は委員15名の出席があり、委員会設置要綱第4条の規定（過半数の出席で成立）を満たし、会議は成立。</p> <p>●会議の公開について</p> <p>本日の議題、「第4期地域福祉計画の進捗状況について」は会議の非公開事由には該当しないとして、公開を提案し、委員長の了承を得る。 ⇒傍聴希望者なし。</p>
委員長	<p>2. 議題</p> <p>本会議は地域福祉計画の進捗等について検討する会議です。</p> <p>全世界を見渡しても、社会福祉自体、本当に色々な変化が起こっていると思いますが、地域でそれぞれの人が営んでいる日々の活動にしっかりと目を向けながら、様々な課題、問題がある中で、それをどうしていけば良いのかを皆さんと一緒に考えていく、そういった会議になっています。</p> <p>そのうえで、地域福祉をどう考えるかという点においては、富田林市は、増進型地域福祉を特徴として掲げています。自治体レベルで増進型地域福祉を掲げている所は他にはありません。つまり、それだけ新しいことをやろうとして</p>

いて、新しいことに取り組もうとすると、色々な声も聞こえてきます。それでも、第4期地域福祉計画策定にあたり増進型地域福祉に取り組むと決めて行っているため、委員の皆さんからはその視点・立場でのご意見をいただければ、大変ありがたいです。

時間も限られているので、さっそく議題に入ります。議題（1）について、事務局から報告をお願いします。

【事務局報告】

事務局

（1）全体校区交流会議について 資料1-1,2説明

増進型地域福祉課作成特集記事が掲載された市広報2月号及び、令和7年2月14日に行われた全体校区交流会議について報告させていただきます。

（スライド2）

令和5年度に引き続き、令和6年度も2月号広報に特集記事を掲載しています。今年度の特集記事は校区交流会議の周知と参加者募集に焦点を当てました。

この趣旨変更は第1回委員会にて「地域住民の関心を引き出し、参加につなげることが校区交流会議の発展的継続に向けた重要なポイント」とご意見をいただいたことを受け行ったものです。

今後も、多様な媒体を活用し校区交流会議の情報発信に努めてまいります。

（スライド3）

令和7年2月14日、市レインボーホールにて全体校区交流会議を開催しました。

会議冒頭で16校区の取り組みを紹介したので、委員の皆さまもご覧ください。

資料1-2参照

（スライド4）

全体会議には総勢100名の方にご参加いただきました。

振り返りを行った後、小野教授より「新たな福祉をつくる～校区交流会議と増進型地域福祉～」というテーマで講演していただき、「校区交流会議は幸福をつくる」「福祉は創造していくもの」という目的を再確認しました。

（スライド5）

今年度の全体校区交流会議は「出席者の対話と交流」に焦点を当て、校区間交流会を行いました。

交流会では、交流の中で感じたことを対象の校区にフィードバックできる「そこが気になったよ!カード」という仕組みを活用しました。

（スライド6）

全体校区交流会議のアンケートでは、概ね参加して良かったと回答をいただいています。多くの方より「他の校区の取り組みを直接聞く良い機会となった」「自身の校区の取り組みを考えていく参考になった」とご意見をいただいている一方で、「全体を回る時間が足りなかった」というご意見もあり、次年度以降の全体会議開催に向けての参考としたいと考えています。

（スライド7）

今後の取り組みについては多数前向きなご意見をいただいておりますが、「市民全体に交流会議を知ってもらいたい」「校区交流会議にこどもの参加を」というご意見も見られたため、効果的に情報発信に努める必要性をより感じています。

	<p>校区交流会議を広め、発展させていきたいという前向きなご意見が多いことは明らかであるため、市と社会福祉協議会で連携しながら今後の展開を検討していきたいと考えています。</p> <p>事務局からの報告は以上となります。</p>
<p>委員長</p>	<p>参加された方、参加されていない方それぞれいると思いますが、先ほどの説明でもあったとおり、かなり多くの方が参加されて全体校区交流会議が行われました。</p> <p>紹介にもあったとおり、色々な仕掛けがしてあって、実際に回ってみて他の校区へのコメント等をもらい、この後さらにそれを検討していくということになっているということでした。</p> <p>私としても、やったかいはあったと感じていますが、何かご意見や感想、質問等聞かせていただければと思います。</p>
<p>委員⑬</p>	<p>全体校区交流会議に参加して一つ感じたことは、全体の会議も必要だと思いますが、地域実態が16校区それぞれ違うと思うので、ブロックを4つ程度にわけて、細かい地域実態を反映させた交流会議が出来ればありがたいと感じます。</p> <p>南海沿線地区と近鉄沿線地区では地域実態が違っていると感じており、話題や実践プログラムの内容等、違ったものが反映されると思います。</p> <p>そういった点も検討していただければありがたいと思います。</p>
<p>委員長</p>	<p>そのあたりは事務局も含めて検討して行って、どのような形で行うのが良いのか模索していく段階だと思いますので、貴重なご意見ありがとうございます。</p>
<p>委員⑤</p>	<p>川西校区では世代間交流をテーマに取り組んでいるが、昨年から、川西校区内の14町会において、防災と避難について各町会で検討を進めています。今年になって私の町会では防災マニュアルを作成し、2月15日には町会や自主防災組織、防犯委員、老人会、民生委員等、各種団体が集まり災害マニュアルの検討会を行いました。</p> <p>14町会それぞれの防災マニュアルが完成するのはまだ1、2年程度かかると思いますが、これが完成すれば出来るだけ町会と校区交流会議を合体させて、14町会のマニュアルを柱として、校区全体に広めていきたいと考えています。</p>
<p>委員長</p>	<p>地域における全ての活動を校区交流会議で担っていくのではなく、増進型地域福祉の考え方が浸透し、それをきっかけに地域の中で地域福祉について活発な展開が向くということが望みなので、そういった展開をしながら上手く校区交流会議につなげていただけると良いんだろうなと思います。</p>
<p>委員⑭</p>	<p>全体校区交流会議に参加させてもらい、各校区の取り組みを知れる大変有意義な時間だったと感じています。今回の全体会議は全て市と社会福祉協議会が事前準備してくれていたの各校区で準備する必要が無かったが、校区交流会議の参加者がお客さんになってはいけないと感じている。例えば、どういった内容で発表するのか各校区で検討する等した方が、主体的に関われるのではないかと感想を抱きました。</p>

委員長	<p>校区交流会議は会議が開催されるその日だけではなく、そこに向けて取り組むプロセスが重要なのでそこに一緒に取り組んでいきたいということだと思います。今回の全体校区交流会議はこのような形での開催となったが、次回以降の開催に向けたご意見として承ります。</p>
委員①	<p>全体校区交流会議に参加し、他の校区の取り組み等を見せていただき、担当していた東条校区のブースにもたくさん質問に来てもらいました。こんなに小さな校区なのに500人も来場者があったの?や、そもそも東条校区ってどこにあるの?等の質問もたくさん受けました。東条フェスティバルは楽しんでいただくことをメインに考えた取り組みなので、他の校区が防災について取り組んでいるのを見て、東条小学校は危険地区なので災害時は小学校から離れないといけない等、災害の種類やタイミングによってどこに避難すれば良いのか変わる点を再認識しました。居住している人だけでなく、来ている人がこの場合はどう避難すれば良いかの表示等、東条校区ならではの防災について考えていく必要があると先日の校区交流会議でも話していました。</p> <p>そこが気になったよ!カードにもたくさんコメントを書いてくれており、校区交流会議をより発展的に進めていく活力となりました。</p>
委員長	<p>今年度の全体の傾向として、防災や健康増進の取り組みが多かったと感じます。テーマは各校区で取り組みたい内容を選んでいただけると良いと思いますが、現在はまだプロセスの段階で、その中に福祉ってなんだろうとわかるような仕掛けを入れられると良いと考えています。</p> <p>おそらくこれが第一歩となり、これを足掛かりにして増進型地域福の考え方を広めていこうということです。委員の皆さんにはその点を了承いただければと思います。まずは、間口は広く、やることは深くしていきたいと考えています。</p> <p>それでは、議題(2)に移ります。事務局より報告をお願いします。</p>
事務局	<p>【事務局報告】</p> <p>(2) 重点施策(1、2)について 資料2説明 (スライド1)</p> <p>重点施策の進捗状況について報告します。 (スライド2)</p> <p>まず、重点施策1ですが、スライドには4つの構成要素とイメージ図があります。</p> <p>校区交流会議では、さまざまな参加者の対話によって、地域の理想の実現に向けた校区プログラムの企画・実践が行われています。</p> <p>社会福祉協議会は事務局として、会議のファシリテートや参加の働きかけ等、重要な役割を担っています。</p> <p>市は、各部局から管理職16人を選任し、さらに、今年度から、増進型地域福祉課の一般職員を加え、3人一組で、2つの校区を担当しています。</p> <p>校区交流会議から地域課題を共有し、政策形成につなげていく、全庁的な増進型地域福祉を進めていく仕組みとなっています。 (スライド3)</p>

校区交流会議の開催数及び校区担当職員の参加数はグラフのとおりです。

事業開始当初、コロナ禍の影響で会議開催が進まない状況が続きましたが、徐々に活発になり、今年度は昨年度を上回るペースで、2月19日までに82回の会議が開催され、すべての会議に担当職員が参加しています。

また、広聴活動の実績や、校区プログラムの実践校区数も過去最多となる見込みです。

(スライド4)

市長を中心に全部局長と地域課題の共有や、施策を検討する「増進型地域福祉推進会議」を、2月14日に開催しました。

今回の会議では、施策の検討を進めたい案件として2つ共有しましたが、重点施策1からの案件として、小金台校区の取り組みを共有しました。

小金台校区では「ロコトレを地域に普及させよう」と医師の指導をもとに、学校や子どもたちにも協力していただき、動画の作成が進められています。

《ロコトレ動画視聴》

最近では、高齢者だけでなく若年層の運動機能の低下が指摘されていますので、健康増進は子どもから高齢者まで共通する、重要な取り組みです。

今後は、地域で生まれたこの取り組みを、市全域に広めていくため、庁内関係課と連携しながら施策化できるよう検討を進めてまいります。

(スライド5)

重点施策2には、3つの構成要素とイメージ図があります。

重点施策2と関連して、富田林市では、令和5年度より重層的支援体制整備事業を開始しましたが、複雑・複合的な課題がある世帯が増えており、制度の狭間の支援にも、関係課と連携しながら対応しています。

(スライド6)

新規事業「アウトリーチ等を通じた継続的支援」の実績をまとめています。

アウトリーチ支援では、本人からの相談がない段階、もしくは、本人自ら支援を求めることができないなど、支援が届いていない人に対して、訪問による直接的なアプローチだけでなく、手紙やメールなどの間接的な関わりも含めて、丁寧な働きかけにより、つながりづくりを行います。

新規対象者は令和5年度13件。令和6年度7件ですが、長期間伴走支援が必要なケースもあり、現在11件の対応を行っています。

支援対象者の世帯状況としては単身世帯が最も多く、年代では、50代が最も多く、30代・40代といった中年層が半数以上となっています。

また、課題として、ひきこもりや閉じこもりの状態、家族や地域との関係が希薄であったり、トラブルがある状態のケースが非常に多くなっています。

(スライド7)

アウトリーチ支援対象者を含め、地域とのつながりが希薄で、自ら助けを求めたり、声をあげにくい孤独・孤立の問題が顕在化しているなか、どのようにつながり、支援につなげていくかが、大きな課題として感じています。

増進型地域福祉推進会議では、重点施策2からの案件として、孤独・孤立の問題を共有しました。

また、「孤独・孤立対策」は、国においても令和6年4月に「孤独・孤立対策推進法」が

施行されました。

(スライド8)

孤独・孤立の一般的な捉え方として、「孤独」は寂しいという感情を含めた主観的な概念で、「孤立」は社会とのつながりや助けがない状態等の客観的な概念です。

孤独・孤立が関連する死亡や健康被害のリスクは、喫煙や飲酒、肥満よりも高いという医学的なデータもあり、孤独・孤立が様々な課題の背景になって、心身に有害な影響を受けている状態が「孤独・孤立の状態」の定義となります。

また、孤独・孤立対策は予防の観点も取り入れた施策の検討が必要となります。

(スライド9)

孤独・孤立対策推進法では、市町村の取り組みとして大きく2つ挙げられています。

法第11条の「地方版 孤独。孤立対策 官民連携プラットフォーム」の構築と、法第15条の「孤独・孤立対策地域協議会の設置」です。

(スライド10)

富田林版のプラットフォームは、名称を「増進型地域福祉プラットフォーム」とします。

行政においては部局横断的な庁内連携体制の構築、地域においては社会福祉法人やNPO、地域団体や民間企業等、官民連携によるプラットフォームの構築を進めます。

そして、団体それぞれの活動のなかで、負担のない範囲での見守りや、異変に気付いた時に支援につなぐ役割。また、それぞれの施設や団体、企業の特徴を活かして、対象者が社会参加できる受け皿づくりにつなげたいと考えています。

すぐには施設や団体の協力や、対象者の社会参加につながらないかもしれませんが、既存のサービスだけでは対応できない制度の狭間の支援として、有効な取り組みになるものと考えています。

(スライド11)

多様な地域づくり活動を土台とし、重層的な相談支援、地域とつながる参加支援等、重点施策1と2が関連し、一体的な取り組みが重要であると認識しています。

一方で、これまでの校区交流会議を実践してきた振り返りや、地域の声として、地域との関係が希薄な人と、どのようにつながり参加につなげていくか、また、地域活動の担い手が固定化しているなか、どのように担い手を広げていくか、このような意見が、地域から多く挙がっています。

この課題の解決に向け、全庁的な取り組みとして、孤独・孤立対策を進めながら、多様なつながりの創出や、担い手の拡充、地域団体との連携にもつなげてまいります。

以上が報告となります。

委員長

地域福祉計画で重点施策を2点掲げており、その2点を中心に増進型地域福祉を検討していこうという建付けになっています。そのため、重点施策の中で検討したいこととして、事務局から報告してもらいました。

一つ目は、地域の理想の実現におけた取組への支援、具体的には校区交流会議等を中心として、地域の理想を話し合い実現していく仕組みを作っていこうということです。

もう一つが、相談援助といわれる分野です。地域生活課題と言われるものを抱えている人たちが自ら相談できない事例はたくさんあります。相談に来れば、そこから相談援

助が始まるが、つながれないという課題がある。その課題の背景に孤独・孤立の問題があるということで、これは富田林市だけの問題ではなく、日本全体で急速に大きな問題となっています。背景として、一人暮らし世帯の増加があります。現在の家族形態で一番多いのは一人暮らし世帯で、7人に1人の割合になっています。一人暮らし世帯は若年層もいるが、高齢者が多く、高齢者の場合、近隣に親類がいれば良いが、いない人が増えてきている。身寄りのない高齢者が急速に増え、その人たちをどうするかが問題になっています。具体的な例として、住む場所の問題があり、身寄りがなく保証人が確保できないため住居を契約できない状況となる。そうなれば公営住宅が支援するというイメージはあるが、公営住宅の方が保証人を求められることが多いこともわかってきています。そういった住居の問題や、手術を受ける際の医療同意において、本人同意をどう取るか、認知症等が重なるとより同意を得ることは困難になってしまう等、二重三重の課題となることがわかってきています。

そういった人たちが地域の中で孤独・孤立状態になっていることに誰が気付くことが出来るのかというと、やはり地域となります。行政の仕組みとして、福祉だけに限らず、「相談がある人は来てください」、という待ちの仕組みでしたが、それだけだと課題が把握できないので、相談機関が地域に出て課題を探してこようとする。まさに地域福祉の取り組みです。そして、さらにそういった課題等に気づくことができるのは、地域に住んでいる人たちなのです。今までは個人主義であまり他人の生活に口出してこなかったが、問題が深刻化する前に、お互いが気を遣って、状況がわかるような雰囲気を作る、行政や社会福祉協議会が行うフォーマルなサポートも必要ですし、地域での気遣い合いというインフォーマルなサポートの両方が必要な領域だと思えます。

孤独・孤立の問題の難しいところは、行政等公的なサービスにつながっていればそれで良いのかという点です。形式上はそれで良いと思いますが、その人が地域の中に誰も知る人がおらず、誰とも話せない状況が、地域福祉という視点から見ると、地域生活として良い状態とはいえません。地域や「人と人とのつながり」というインフォーマルな点も重要になってきます。

こういった問題を取り上げる際、いかに増進型に取り上げられるかという点が最大のポイントになってくると思えます。

まずは、本日の報告で示された点について、委員の皆さんからのご意見をお聞かせいただきたいと思えます。

委員⑨

地域で、一人暮らしの方のために晩御飯等を一緒に食べる活動をしています。利用者の中に、遠くの地域から親戚を頼って富田林市へ転入し、利用している人がいます。その方はケアマネージャーからの紹介で利用開始となりましたが、一人の人は施設入所になると聞いています。もう一人、急に利用が無くなった方がいて心配しているのですが、そういった時、どこに相談すれば良いのかと迷っています。

委員長

事務局から回答出来るのであれば回答をお願いします。

事務局

やはり、地域の方の気付きがとても大切になります。相談先としては、コミュニティソーシャルワーカーの福祉なんでも相談になると認識しています。

委員⑨	<p>一度、福祉なんでも相談に相談し、働きかけてもらった結果、利用を再開したが再度来なくなってしまいました。コミュニティソーシャルワーカーがその人に対し、どういったフォローを行っているかという点が気になりました。</p>
委員長	<p>そういった事象が起こった時、何度でも相談していただくことが重要だと思います。人と人の暮らしなので、どこまでして良いのかとつい考えてしまいますが、そういったメッセージは専門職から出してもらった方が、住民の立場としてはやりやすいのではないかと思いますので、そのあたりを事務局の中でも共有しておいてもらえば良いと思います。</p>
委員⑬	<p>校区担当職員は各校区を3名で担当していますが、任期が短いために、以前話したことが通じないことがありました。できれば、もう少し任期を長くしてもらいたいと考えています。</p> <p>校区福祉委員や町内会の役員、民生児童委員、保護司、ボランティア等、藤沢台校区においてはとても少ない状況です。他校区の状況までは把握できていませんが、藤沢台校区では少ないうえに、高齢化や、疾病を原因に辞任する方もいます。新しく入ってきた人に声掛けは行っていますが、できれば、行政からもっとPR、呼びかけをしてもらいたいと感じます。</p>
委員長	<p>ご意見についての事務局からの応答は後の時間に行うこととします。</p>
委員④	<p>要望も兼ねた意見となります。</p> <p>民生委員活動で関わっている、身内の方とも一切連絡を取っておらず不仲状態の一人暮らしの方で、他の支援者と協働して見守り活動を行ってきたが、救急搬送される際、民生委員だと名乗っても搬送先の情報提供が受けられませんでした。以前は救急車の後ろをついて行って、搬送された医療機関に本人の情報を伝えていたが、入院となると一切面会が出来なくなっていました。</p> <p>民生委員には守秘義務があることを伝えても、面会等一切の手続きが出来ません。泉南市では、行政や市議会に働きかけ、市民病院だけは民生委員が面会出来るようになったと聞いています。ぜひ、富田林市でも民生委員が入院した独居高齢者との面会や、救急搬送先を把握できるよう検討して欲しいと考えています。</p>
委員⑤	<p>少子高齢化が進行し、地域では独居高齢者が増えており、コミュニティが希薄化していることから、居場所が不足しています。</p> <p>地域のシニアクラブ等で催し事を行うと、健康な方は参加しますが、身体が弱い方などはなかなか参加しません。これからは、もう少し集まりやすい居場所作りを考えていく必要があります。</p> <p>シニアクラブ、福祉委員会では9月と3月に友愛訪問という、地域の独居高齢者を見守る取り組みを行っています。9月に訪問した時には元気だったのに、6カ月経過して訪問すると施設入所になっている場合等があります。半年間というインターバルでは期間が長すぎると感じています。今後は地域の民生委員と調整しながら、インターバルを短縮して、出来るだけ早く情報をキャッチしてつなげていくということに努力したいと考え</p>

ています。

「つながりの希薄化」という問題と、「居場所づくり」はこれから地域の中でも、そういった点を考慮しながら取り組んでいく必要があると感じています。

委員長

様々な問題や課題が出てきました。他に、発言がある方はいらっしゃいますか。

委員⑭

校区交流会議について発言させていただきます。

今、富田林市で一つの大きな課題となっているのがこどもの問題で、昨年、こども基本法が出来て、富田林市でも条例を作ろうと動いています。条例検討の中で一番課題になっているのは、こどもの意見表明についてだと思います。条例を作る中で、こども会議やこどもサミット等、色々な仕組みを考えていますが、校区交流会議こそ、その最たるものではないかと考えています。校区交流会議は地域の未来を考えていくもので、実際に未来を作っていくのはこどもになります。こどもの意見を地域づくりに反映していくことが重要で、喜志校区ではそういった取り組みを始めているようですが、学校との調整等難しい面もあると思いますが、意識的にこどもたちに校区交流会議に参加してもらったり、意見を聞く仕組みを導入していく必要があるのではないかと考えています。

こども会議やこどもサミットは開催頻度も乏しく、参加してくれるこどもも固定化してしまいが、校区交流会議であれば定期的開催しており、会議参加者が日常的に関係を作っているこどもたちに参加してもらいやすく、意見も聞きやすいのではないかと思います。各校区、事情はあると思いますが、こどもの意見を取り入れて変わっていくことが出来れば、素晴らしいことだと思います。

委員⑦

校区プログラム開催にあたり、大人がすごく頑張って、こどもには「参加してね」というスタイルになっていると思うので、こどもや若者を巻き込みながらやっていけると良いと思いました。

子育て支援の立場から発言させていただきます。子育てが始まった時は、価値観が変革される時だと感じています。子育てが始まった時に、「しんどい」と言える環境にあるのか、「しんどい」と言った時にキャッチしてもらえたかどうか、先々、人を頼って良いのかという価値観に影響していると思います。これは本来であれば幼少期に大人がしんどい思いをキャッチしてくれたかどうかということに影響されるのですが、子育てが始まった時が一つのチャンスだと感じています。子育てが始まった時に、地域との関係が密であれば密であるほど、色々な価値観が入ってきます。願わくば、指導ではなく、温かい眼差しを向けてあげて欲しいと思います。

皆さん、アドバイスはしたくなると思いますが、完璧な子育てでなくとも良い、その人がその人なりに頑張っているという目線での見守りを地域で行ってもらえると、安心して子育てが出来る地域になると思いますし、それが何よりの予防になります。

問題が起きているところにいかに介入していくかよりも、もっと前段階の予防の仕組みをしっかり作らないといけません。受援力を高めていくような取り組み、予防が大切なのではないかと思います。

委員長

本日の会議の内容は、ぜひ多くの人、住民に聞いて欲しいところです。

時間の問題もありますので、各委員からの発言について、私から応答させていただきます。

ます。

校区担当職員の任期の問題については、仕組みの問題もありますので、事務局でどういった形が良いのか探求して行ってください。担い手不足や、住民の認識の問題等についても、本日の内容を基にさらに進めて行っていただくようお願いします。

民生委員の職権については、泉南市の事例を参考にしつつ、富田林市ではどこまでどういった形が良いのか、行政の中だけで検討するのではなく、当事者の声も聴きながら、より良いアイデアを引き出していてもらいたいと思います。

居場所づくり、居場所問題は地域で大きな課題となっています。支援のインターバルについては、その設定が今の生活レベルに見合っているか、見合っていないのであれば今後どうしていくか、どうしていったら良いか検討していてもらいたいと思います。

こどもの問題と高齢者の問題、どちらも地域というものにとっても関心が集まっています。こどもも、これまでは家族の中でという価値観で動いてきたが、それだけでは留まらないということがわかってきました。地域でどうやって育てていくのか、こどもの意見表明をしっかり受けたうえで、こどもと一緒に地域を創っていくという点をどう取り扱っていけるのか、また、校区交流会議との関係性もこれから検討していく必要があります。

地域での子育てがどうなったら良いのか考えていくことの重要性を改めて感じましたので、校区交流会議等で話し合っていける仕組みを作っていければ良いと感じます。

まずは、委員長から応答させていただきましたが、時間があれば事務局からも個別意見への応答をお願いします。

それでは、最後の議題に進ませていただきます。事務局から説明をお願いします。

事務局

【事務局報告】

(3) 次期(第5期)計画策定に向けたスケジュール(案)について 資料3説明

それでは、次期、第5期計画の策定に向けたスケジュール(案)についてご説明させていただきます。

(スライド2)

現在の第4期地域福祉計画は、令和4年度から8年度までの5ヵ年計画となります。

第4期計画は、第3期計画の最終年度に、社会福祉協議会が策定する地域福祉活動計画と一体的に策定しました。

この間、年2回、本委員会を開催しながら、計画の進捗確認や評価等を行い、公表もしているところですが、残り2年間も同様に言い、最終年度には総括を行う予定です。同時に、第5期計画の策定についても準備が必要な時期となってきました。

第5期計画策定にあたり、基本理念や重点施策、また、活動計画との一体策定とするのか、期間をどうするのか等、様々な点について、委員のみならず十分な議論が必要であると考えています。

(スライド3)

そこで、第5期計画は、令和7年度より策定準備に入り、令和8年度中の完成をめざしたいと考えています。

現在、年2回開催している本委員会を、令和7年度には3回程度、令和8年度には4回程度としながら、検討を進めさせていただきたいと考えています。

(スライド4)

主なスケジュールはスライドのとおりです。

	<p>令和7年度は、第4期計画の進捗把握や評価を行いながら、秋以降、第5期計画の骨子やアンケートの内容について検討を始めることを想定しており、年3回程度、本委員会を開催する予定です。</p> <p>(スライド5)</p> <p>令和8年度は、第5期計画策定年度となるため、市民アンケートの実施や集計、第4期計画の総括をふまえ、計画素案の内容検討を充分に行いながら、令和9年1月のパブリックコメント実施に向け、最低でも4回程度の委員会を開催し、準備を進めたいと考えています。</p> <p>(スライド6)</p> <p>地域福祉推進委員会委員の委嘱については、現委員の委嘱期間が令和7年6月30日までとなるため、令和7年度第1回委員会までとなります。</p> <p>7月以降の新委員の委嘱については、改めて各種団体に推薦依頼をさせていただきます。また、市民委員についても、新年度に公募を行う予定としております。</p> <p>引き続き、みなさまのご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。</p> <p>事務局からの報告は以上です。</p>
<p>委員長</p>	<p>地域福祉計画を策定するようになったのは、全国的には2000年以降です。社会福祉法が策定されたことにより、行政計画としての地域福祉計画策定が始まりました。富田林市は次期が第5期ということで、当初から計画を策定していたということになります。社会福祉協議会が策定する地域福祉活動計画も同時並行で進んできています。この2つの計画をどうしていくかということもありますが、そういった背景の中で富田林市が動いてきたという点をご理解いただければと思います。</p> <p>事務局から提示されたスケジュールは、計画の内容をしっかりと検討したうえで策定したいという思いが反映されたものだと思います。まずは、そうしたいという考え方があるということですので、何かご意見等がありますでしょうか。</p>
<p>副委員長</p>	<p>そうしたいと思います。</p>
<p>委員長</p>	<p>令和7年度第1回委員会では、情報提供レベルで中身に立ち入っていないので、議論はその後、新委員にて行うということになります。</p> <p>アンケートはもちろん大切ですが、当事者の声をいかにしっかりと聴いていくかが重要となります。増進型地域福祉の考え方もどう反映させていくのかという点も関心があるところです。</p> <p>本日は告知ということでしたので、その他ご意見はいかがでしょうか。</p>
<p>委員⑭</p>	<p>本日配布させていただいた「富田林居場所つながりマップ」のチラシについて少し説明させていただきます。</p> <p>現在、休眠預金助成事業を活用し、居場所マップの作製に取り組んでいます。</p> <p>今までも居場所のマップはあったと思いますが、縦割りのマップが多く、居場所は縦割りでできるものではないと思います。</p> <p>紙のマップでは更新が間に合わなくなるため、デジタルマップを作製し、検索機能も</p>

活用できるようにしています。

現段階では実験段階で、実際に登録してもらって、どういった分類が良いのか、どういったシステムが良いのか等を検討して、夏頃から本格稼働させていこうと考えています。

居場所はたくさん運営されていると思いますが、居場所同士が繋がっていないと感じています。

居場所を運営している人には登録をお願いするとともに、運営している人を知っていれば登録を勧めたいので、ご協力をよろしくお願いします。

委員長

地域福祉の発想は縦割りではなく、横につなげようという発想です。本日は色々なご意見をいただきました。

本日の議題は以上となります、進行を事務局に戻します。

事務局

閉会にあたりまして、福祉部長よりご挨拶させていただきます

●部長挨拶 福祉部長より挨拶

毎回、この会議に出席させていただき、本当にパワーと、委員の皆さまそれぞれの立場からの貴重なアイデアをいただいております、誠に感謝しております。

地域の中には光と影があります。校区交流会議をもとに、地域に日の差す場所を広げながら、日陰にいる人たちにどうやって光に当てていくのかという点が、行政の使命だと感じています。

この3年間で、16校区それぞれのもものが、少しずつ出来てきたと思います。現状はマイナスをゼロにした段階だと思いますので、ここから、理想の地域をどう作っていくのか、増進型をめざすのかという点を次期計画に反映させていきたいと考えていますので、引き続き、ご協力をよろしくお願いいたします。

本日は、誠にありがとうございました。

●令和7年度の地域福祉推進委員会について

議題3でご説明させていただいたとおり、令和7年度第1回委員会は6月末までに開催予定となり、詳細については決まり次第、改めてご案内させていただきます。

以 上